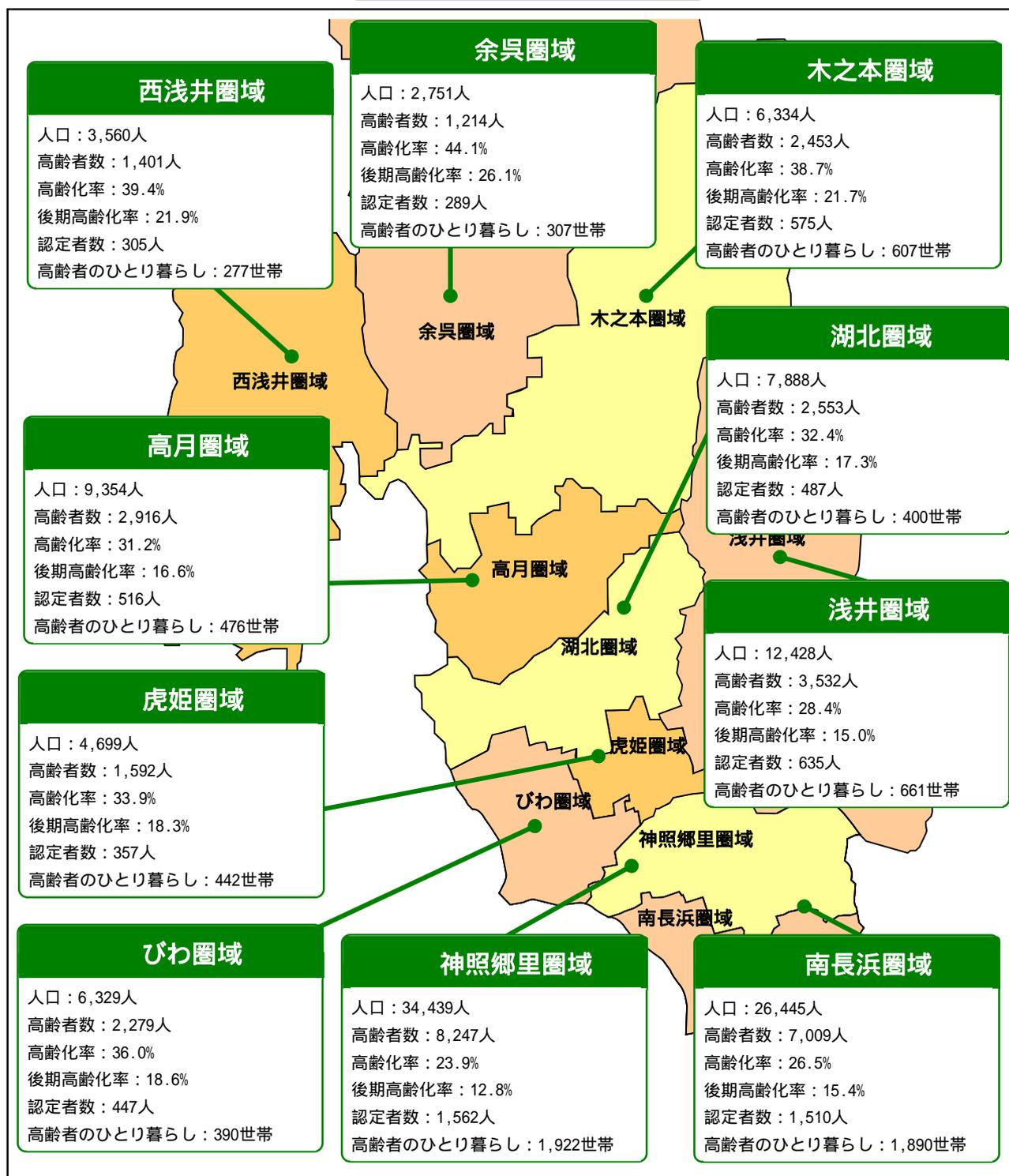


第5章 日常生活圏域の状況

本市では、見守りや生活支援の体制づくりの観点とサービス基盤の状態を踏まえ、高齢者が住み慣れた地域で、介護・医療等の社会サービス拠点や事業が効果的に展開され、重層的につながりあう姿を念頭に置き、これらが有効に機能するよう、行政や介護サービス事業者が基盤の整備や活動を展開する区域として市域に10の日常生活圏域を設定しています。

長浜市 日常生活圏域



(注) 令和5年4月1日現在のデータ

【長浜市全域】

基本情報

	令和5年(2023年)
人口	114,524人
高齢者数(率)	33,273人 (29.1%)
後期高齢者(率)	18,210人 (15.9%)
要支援・要介護認定者(率)	6,785人 (19.8%)
高齢者のひとり暮らし世帯(率)	7,447世帯 (15.7%)
高齢者のみの世帯(率)	5,724世帯 (12.1%)
総世帯数	47,414世帯
認知症高齢者数(認知症自立度 以上)	6,638人

(注1) 全市には日常生活圏域に入らないその他が含まれているため合計が一致しない場合がある。

(注2) 令和5年4月1日現在のデータ

(注3) 要支援・要介護認定率は、第2号被保険者(65歳未満)の要支援・要介護認定者を除いて算出した値

地域資源

医療	病院	4施設	介護サービス事業所等	看護小規模多機能型居宅介護	2か所	
	診療所	68施設		特定施設入居者生活介護	1か所	
	歯科診療所	41施設		認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	16か所	
介護サービス事業所等	訪問介護(ヘルパーステーション)(C型2含む)	31か所		介護老人福祉施設	13施設	
	訪問入浴介護	3か所		介護老人保健施設	3施設	
	訪問看護	16か所		有料老人ホーム	2施設	
	通所介護(デイサービス)(A型4含む)	35か所	サービス付き高齢者向け住宅	5施設		
	地域密着型通所介護(療養通所)	18か所	高齢者サロン等	老人クラブ	126クラブ	
	通所リハビリテーション(C型2含む)	10か所		生活支援ボランティア団体	11団体	
	認知症対応型通所介護	11か所		通いの場	サロン	246サロン
	短期入所生活介護(ショートステイ)	10か所			転倒予防自主グループ	149グループ
	短期入所療養介護(ショートステイ)	3か所	よりあいどころ		8団体	
	居宅介護支援事業所	41か所				

(注1) 広域で転倒予防自主グループを実施しているところがあるため全市の合計は一致しない。

(注2) 転倒予防自主グループは令和5年8月25日現在、その他は令和5年4月1日現在のデータ

【 南長浜 日常生活圏域】

南長浜圏域の高齢化率は、全市平均より低くなっていますが、高齢者のひとり暮らし世帯の割合は、全市平均を上回っています。

医療機関数は10圏域の中で最も多く、また、各種介護サービス事業所があり、サービス基盤は充実しています。各種のリスクを有する割合をみると、全てのリスクにおいて全市平均を下回る状況にあります。

外出の頻度も、週5回以上とする割合が、全市平均を上回っています。

地域活動への参加状況をみると、週1回以上参加している人の割合は、高齢者サロンや通いの場、老人クラブを除く活動について、全市平均を上回っています。地域活動への参加意向については、全市平均並みとなっています。

基本情報

	令和5年(2023年)	
	南長浜	(全市)
人口	26,445人	114,524人
高齢者数(率)	7,009人(26.5%)	33,273人(29.1%)
後期高齢者(率)	4,066人(15.4%)	18,210人(15.9%)
要支援・要介護認定者(率)	1,510人(21.1%)	6,785人(19.8%)
高齢者のひとり暮らし世帯(率)	1,890世帯(16.1%)	7,447世帯(15.7%)
高齢者のみの世帯(率)	1,242世帯(10.6%)	5,724世帯(12.1%)
総世帯数	11,728世帯	47,414世帯
認知症高齢者数(認知症自立度 以上)	1,494人	6,638人
地域包括支援センター	南長浜地域包括支援センター	
連合自治会(自治会数)	長浜まちなか(79)、六荘(24)、西黒田(11)、神田(8)	
地域づくり協議会	長浜まちなか、六荘、西黒田、神田	
中学校・義務教育学校	西、南	

(注1) 連合自治会(自治会数)は令和5年5月18日現在、その他は令和5年4月1日現在のデータ

(注2) 要支援・要介護認定率は、第2号被保険者(65歳未満)の要支援・要介護認定者を除いて算出した値

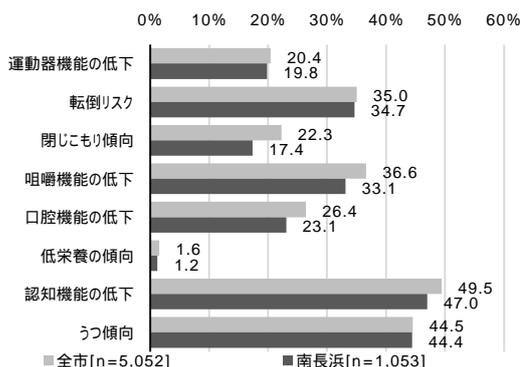
地域資源

医療	病院	3施設	介護サービス事業所等	看護小規模多機能型居宅介護	1か所	
	診療所	23施設		特定施設入居者生活介護	1か所	
	歯科診療所	13施設		認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	2か所	
介護サービス事業所等	訪問介護(ヘルパーステーション)(C型2含む)	12か所		介護老人福祉施設	3施設	
	訪問入浴介護	1か所		介護老人保健施設	1施設	
	訪問看護	8か所		有料老人ホーム	1施設	
	通所介護(デイサービス)(A型4含む)	7か所		サービス付き高齢者向け住宅	1施設	
	地域密着型通所介護(療養通所)	8か所		高齢者サロン等	老人クラブ	8クラブ
	通所リハビリテーション(C型2含む)	1か所			生活支援ボランティア団体	4団体
	認知症対応型通所介護	4か所			通いの場	サロン
	短期入所生活介護(ショートステイ)	3か所		転倒予防自主グループ		29グループ
	短期入所療養介護(ショートステイ)	1か所		よりあいどころ		3団体
	居宅介護支援事業所	11か所				

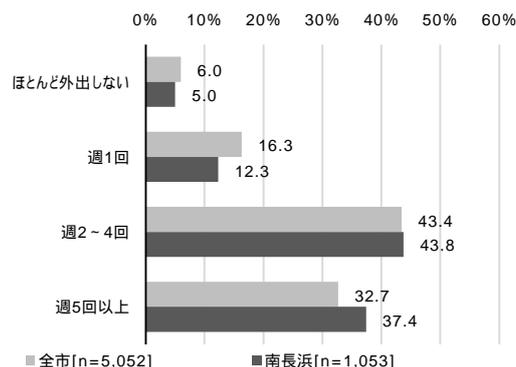
(注) 転倒予防自主グループは令和5年8月25日現在、その他は令和5年4月1日現在のデータ

介護予防・日常生活圏域二区調査の結果

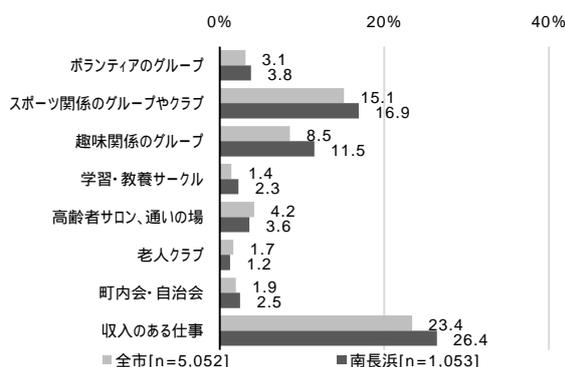
図表：各種リスクを有する割合



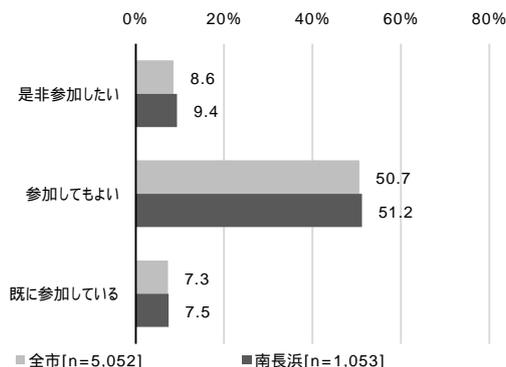
図表：外出の頻度



図表：地域活動等への参加状況（週1回以上）



図表：地域活動への参加意向



地域ケア会議等で把握した現状と課題

- 市街地
 - ・国民健康保険特定健診受診率が市平均より低く、住民自らが健康づくりに関心を持つような働きかけが必要です。
 - ・近隣住民のつながりの希薄化や自治会運営そのものが厳しい自治会が増加してきていますが、近隣同士でお互い見守りあう体制が必要です。
 - ・ひとり暮らしの高齢者が多くサロン等の開催場所まで遠い等の理由により、サロン等の集まりにも参加されず孤立しがちな高齢者もおられます。
- 六荘
 - ・市内で高齢化率が最も低い地区ではありますが、地区内の旧住宅地では高齢化が進んでおり、地域によって居住している年代層が大きく異なっています。
 - ・若い世代が多く、次世代の担い手人材は多いですが、住民相互の意識が希薄化しており、交流やつながりを強化していく必要があります。
- 西黒田
 - ・高齢化が進み、ひとり暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯が増加しており、地域での結びつきが強い一方、困りごとがなかなか支援機関等の相談につながらない現状があり、相談窓口の周知や見守りあう体制が必要です。
 - ・福祉委員は全自治会に設置されていますが、自治会長と兼務していることも多く、福祉委員活動の活性化と複数自治会を兼任する民生委員との連携が必要です。

目指す方向性と取組

- 市街地
 - ・地域団体（地域づくり連合会）と積極的に連携を図り、こころとからだの健康づくりを我が事として捉えてもらえるよう啓発活動を実施していきます。
 - ・住民相互の見守り活動の強化や、訪問型サロン等の生活支援ボランティアへの活動を支援していきます。
- 六荘
 - ・住民相互の意識を高めるため、見守り活動や防災福祉マップの取組に関する研修等を開催し、各自治会での見守り活動を推進していきます。
 - ・つながりの場や見守り活動の場となるサロンや転倒予防教室などの通いの場の活動を推進していきます。
- 西黒田
 - ・引き続き「暮らしの支え合い検討会」や「かなえちゃん会議」で、住民が地域課題を意見交換できる体制を継続していきます。
 - ・各自治会で開催される福祉会議や防災・福祉マップを活用し、西黒田地区の見守り体制を構築していきます。

地域ケア会議等で把握した現状と課題	目指す方向性と取組
<p>○神田</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総人口が市内で最も少ない地区で、高齢化率が高く、ひとり暮らしの高齢者の割合も高い状況です。 ・若い世代の地区外への流出が多いです。 ・介護保険申請時の原因が認知症である高齢者の割合が市内でも高い地区ですが、困りごと相談支援機関等につながりにくいいため、相談窓口や早めの相談の必要性の周知が必要です。 ・福祉委員は自治会の組長が兼務していることが多く、福祉委員活動の活性化が必要です。 	<p>○神田</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症予防のための健康づくりに関する啓発や、地域包括支援センター等の相談体制の周知をしていきます。 ・地区での見守り活動研修会や自治会での見守り会議を実施し、「見守り」に関する意識や活動を推進していきます。

【 神照郷里 日常生活圏域 】

神照郷里圏域では、市街化区域の宅地化が進み、高齢化率は、10 圏域の中で最も低くなっています。また、高齢者のひとり暮らし世帯や、高齢者のみの世帯の割合も、同様に 10 圏域の中で最も低くなっています。

人口が多く、高齢者数も 10 圏域の中では最も多くなっていますが、高齢者の人数に対して、介護サービス事業所数等は少ない状態にあります。

各種のリスクを有する割合をみると、うつ傾向は、全市平均を上回っています。また、咀嚼機能の低下や口腔機能の低下で、全市平均を若干上回る状況にあります。

外出の頻度は、週 5 回以上とする割合が、全市平均を上回っています。地域活動への参加状況を見ると、週 1 回以上参加している人の割合は、スポーツ関係のグループや趣味関係のグループなどで、全市平均を上回っています。地域活動への参加意向については、全市平均並みとなっています。

基本情報

	令和 5 年（2023 年）	
	神照郷里	（全市）
人口	34,439 人	114,524 人
高齢者数（率）	8,247 人（23.9%）	33,273 人（29.1%）
後期高齢者（率）	4,394 人（12.8%）	18,210 人（15.9%）
要支援・要介護認定者（率）	1,562 人（18.5%）	6,785 人（19.8%）
高齢者のひとり暮らし世帯（率）	1,922 世帯（13.0%）	7,447 世帯（15.7%）
高齢者のみの世帯（率）	1,376 世帯（9.3%）	5,724 世帯（12.1%）
総世帯数	14,732 世帯	47,414 世帯
認知症高齢者数（認知症自立度 以上）	1,555 人	6,638 人
地域包括支援センター	神照郷里地域包括支援センター	
連合自治会（自治会数）	南郷里（21）、神照（37）、北郷里（10）	
地域づくり協議会	南郷里、神照、北郷里	
中学校・義務教育学校	北、東	

（注 1）連合自治会（自治会数）は令和 5 年 5 月 18 日現在、その他は令和 5 年 4 月 1 日現在のデータ

（注 2）要支援・要介護認定率は、第 2 号被保険者（65 歳未満）の要支援・要介護認定者を除いて算出した値

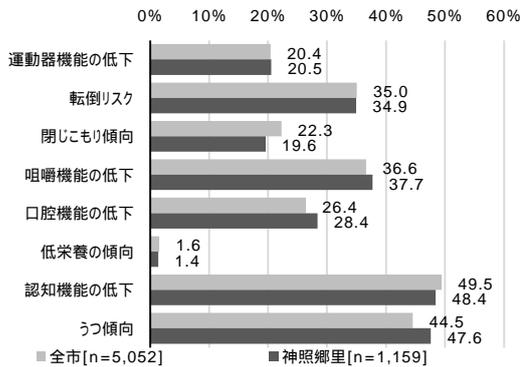
地域資源

医療	病院	- 施設	介護サービス事業所等	看護小規模多機能型居宅介護	1 箇所	
	診療所	20 施設		特定施設入居者生活介護	- 箇所	
	歯科診療所	13 施設		認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	3 箇所	
介護サービス事業所等	訪問介護(ヘルパー)(C 型 2 含む)	5 箇所		介護老人福祉施設	- 施設	
	訪問入浴介護	1 箇所		介護老人保健施設	- 施設	
	訪問看護	2 箇所		有料老人ホーム	1 施設	
	通所介護(デイサービス)(A 型 4 含む)	6 箇所		サービス付き高齢者向け住宅	2 施設	
	地域密着型通所介護(療養通所)	2 箇所		高齢者サロン等	老人クラブ	26 クラブ
	通所リハビリテーション(C 型 2 含む)	1 箇所			生活支援ボランティア団体	3 団体
	認知症対応型通所介護	1 箇所			通いの場	サロン
	短期入所生活介護(ショートステイ)	1 箇所		転倒予防自主グループ		28 グループ
	短期入所療養介護(ショートステイ)	- 箇所		よりあいどころ		2 団体
	居宅介護支援事業所	8 箇所				

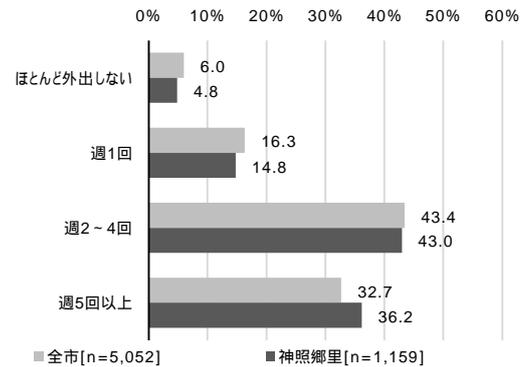
（注）転倒予防自主グループは令和 5 年 8 月 25 日現在、その他は令和 5 年 4 月 1 日現在のデータ

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果

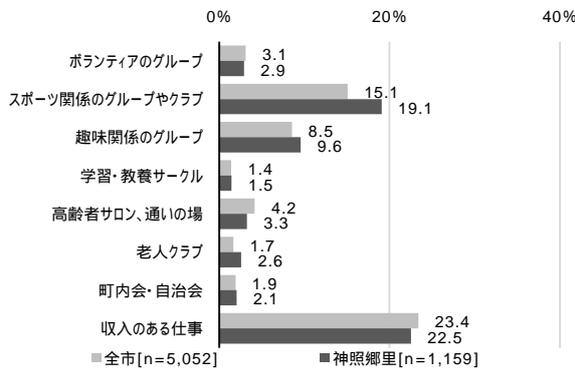
図表：各種リスクを有する割合



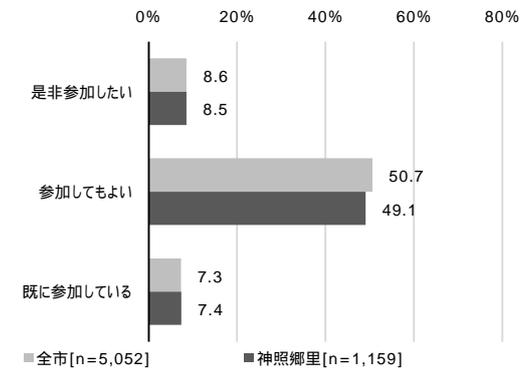
図表：外出の頻度



図表：地域活動等への参加状況（週1回以上）



図表：地域活動への参加意向



地域ケア会議等で把握した現状と課題	目指す方向性と取組
<p>○神照</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新興住宅地やアパート等が多く、近隣との関係が希薄化している地域もあり、高齢者のみの世帯には見守り活動が積極的に行われていますが、家族と同居する世帯には見守りがされにくい傾向があるため、地域で孤立化している高齢者を把握し、見守りや支援につなげることが必要です。 ・サロンなどの通いの場がない自治会があり、高齢者が地域で交流する場が少ないため、気軽に集まれる場づくりが必要です。 <p>○南郷里</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化率は低く転入者が多い地域であり、住民同士のつながりの場が少ない地域もあります。 ・サロンなどの通いの場がない自治会もあり、高齢者が地域で交流する場が少ない地域もあります。 ・受診等の緊急時の利便性は良いですが、日頃から緊急時の備えや共助に対する意識を醸成していく取組が必要です。 <p>○北郷里</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひとり暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯が多く、介護を必要とする高齢者を支える仕組みづくりが必要です。 ・お互いに支え合い助け合う地域づくりの意識を醸成する取組が必要です。 ・高齢化によりサロンなどの地域の通いの場が少なくなっている現状です。 	<p>○神照</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域や自治会で身近な交流の場を増やし、多世代間が交流することで高齢者が孤立しない体制づくりを推進していきます。 ・自治会の見守り活動を推進し、要支援者の把握や災害時等のネットワークづくりを進めていきます。 <p>○南郷里</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域とのつながりが希薄でも気軽に困りごとの相談ができる体制づくりを推進していきます。 ・高齢者の交流の場を設け、閉じこもりや孤立を防ぐよう取り組んでいきます。 ・緊急時の要配慮者への対応や支え合いの必要性についての研修会などを検討していきます。 <p>○北郷里</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者同士での支え合いや地域での見守りの体制づくりについて取り組んでいきます。 ・民生委員や自治会役員に他の自治会のサロンについて見学できるように案内をするなど、サロン開設の支援に取り組めます。

【 浅井 日常生活圏域 】

浅井圏域の高齢化率は、全市平均を少し下回る状況にあります。また、要支援・要介護認定率も、全市平均に比べ低くなっています。

他の圏域に比べ、高齢者数に対する通所リハビリテーションの数が多くなっています。

各種のリスクを有する割合をみると、閉じこもり傾向で、全市平均を上回っています。また、認知機能の低下も、全市平均を若干上回る状況にあります。

外出の頻度は、「週2～4回」「週5回以上」のいずれの割合も、全市平均を下回る状況にあります。地域活動への参加状況をみると、週1回以上参加している人の割合は全般に全市平均を下回る状況にあります。地域活動への参加意向については、全市平均並みとなっています。

基本情報

	令和5年(2023年)	
	浅井	(全市)
人口	12,428人	114,524人
高齢者数(率)	3,532人 (28.4%)	33,273人 (29.1%)
後期高齢者(率)	1,864人 (15.0%)	18,210人 (15.9%)
要支援・要介護認定者(率)	635人 (17.6%)	6,785人 (19.8%)
高齢者のひとり暮らし世帯(率)	661世帯 (14.1%)	7,447世帯 (15.7%)
高齢者のみの世帯(率)	623世帯 (13.3%)	5,724世帯 (12.1%)
総世帯数	4,687世帯	47,414世帯
認知症高齢者数(認知症自立度 以上)	634人	6,638人
地域包括支援センター	浅井びわく虎姫地域包括支援センター	
連合自治会(自治会数)	湯田(17)、田根(13)、下草野(14)、七尾(7)、上草野(9)	
地域づくり協議会	浅井湯田、田根、下草野、七尾、上草野	
中学校・義務教育学校	浅井	

(注1) 連合自治会(自治会数)は令和5年5月18日現在、その他は令和5年4月1日現在のデータ

(注2) 要支援・要介護認定率は、第2号被保険者(65歳未満)の要支援・要介護認定者を除いて算出した値

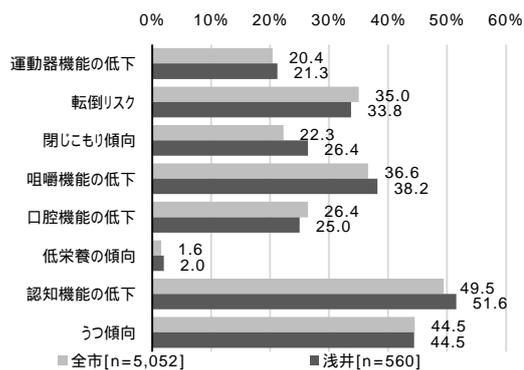
地域資源

医療	病院	- 施設	介護サービス事業所等	看護小規模多機能型居宅介護	- か所		
	診療所	4 施設		特定施設入居者生活介護	- か所		
	歯科診療所	2 施設		認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	2 か所		
介護サービス事業所等	訪問介護(ヘルパ-) (C型2含む)	3 か所		介護老人福祉施設	1 施設		
	訪問入浴介護	- か所		介護老人保健施設	- 施設		
	訪問看護	1 か所		有料老人ホーム	- 施設		
	通所介護(デイサービス) (A型4含む)	2 か所		サービス付き高齢者向け住宅	1 施設		
	地域密着型通所介護(療養通所)	1 か所		高齢者サロン等	老人クラブ	19 クラブ	
	通所リハビリテーション(C型2含む)	3 か所			生活支援ボランティア団体	1 団体	
	認知症対応型通所介護	1 か所			通いの場	サロン	22 サロン
	短期入所生活介護(ショートステイ)	1 か所				転倒予防自主グループ	9 グループ
	短期入所療養介護(ショートステイ)	- か所		よりあいどころ		2 団体	
	居宅介護支援事業所	5 か所					

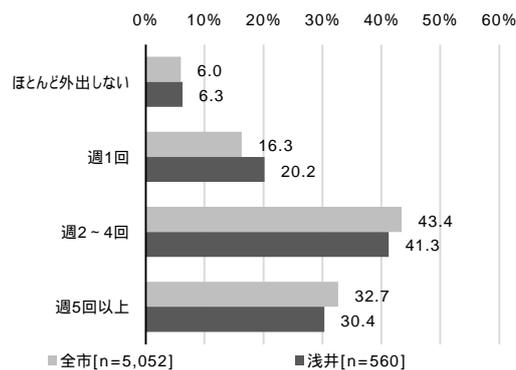
(注) 転倒予防自主グループは令和5年8月25日現在、その他は令和5年4月1日現在のデータ

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果

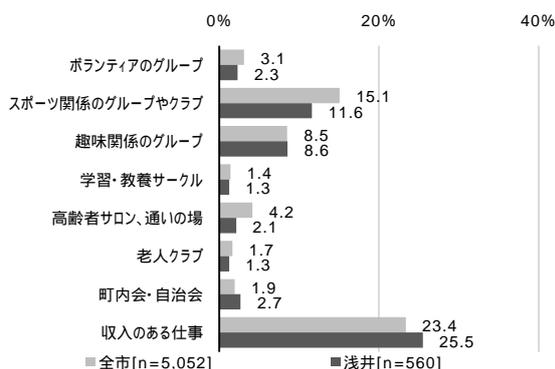
図表：各種リスクを有する割合



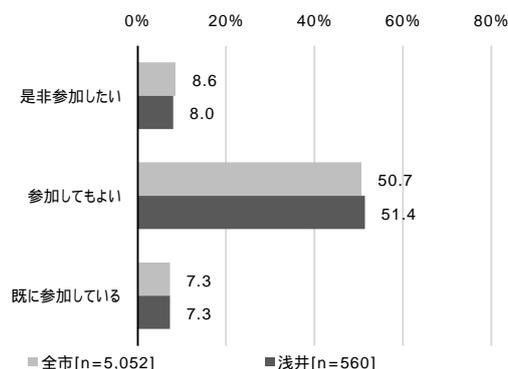
図表：外出の頻度



図表：地域活動等への参加状況（週1回以上）



図表：地域活動への参加意向



地域ケア会議等で把握した現状と課題	目指す方向性と取組
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者を中心に健康意識が高く、健康講座やウォーキングイベント等に積極的に参加する人が多いものの、高血圧や生活習慣病を抱えている人も多いです。 ・高齢化や生活様式の変化に伴い、通いの場等の活動者数が減少し、休止もしくは解散する団体が増えてきており、担い手の育成と確保が必要です。 ・地域での結びつきが希薄になってきている地区があります。 ・複雑化、複合化してからの相談が増えており、他者と交流がないため、問題を家族や本人のみで抱える傾向があり、相談先の周知や見守り合う仕組みが必要です。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種イベントなどで検診や医療機関への受診の大切さや相談窓口の周知啓発を進めていきます。 ・地域に眠っている人材を発見し活用を図っていきます。 ・移動店舗車（食料品販売）などを利用し、孤立しがちな高齢者の交流を推進します。 ・圏域内の各地区が連携し住民が交流することで圏域全体で支え合える仕組みづくりをしていきます。

【 びわ 日常生活圏域】

びわ圏域の高齢化率は、全市平均を上回る状況にあります。要支援・要介護認定者率は、全市平均並みとなっています。また、高齢者のみの世帯の割合が、高くなっています。

サービス基盤としては、居宅介護支援事業所や通所介護が多くあります。

各種のリスクを有する割合をみると、転倒リスク、認知機能の低下などが、全市平均を上回っています。

地域活動への参加状況では、週1回以上参加している人の割合は、各活動とも、全般に全市平均並みとなっています。また、参加の意向については、全市平均並みとなっています。

基本情報

	令和5年(2023年)	
	びわ	(全市)
人口	6,329人	114,524人
高齢者数(率)	2,279人 (36.0%)	33,273人 (29.1%)
後期高齢者(率)	1,176人 (18.6%)	18,210人 (15.9%)
要支援・要介護認定者(率)	447人 (19.5%)	6,785人 (19.8%)
高齢者のひとり暮らし世帯(率)	390世帯 (17.0%)	7,447世帯 (15.7%)
高齢者のみの世帯(率)	397世帯 (17.3%)	5,724世帯 (12.1%)
総世帯数	2,296世帯	47,414世帯
認知症高齢者数(認知症自立度 以上)	444人	6,638人
地域包括支援センター	浅井びわ虎姫地域包括支援センター	
連合自治会(自治会数)	びわ(28)	
地域づくり協議会	びわ	
中学校・義務教育学校	びわ	

(注1) 連合自治会(自治会数)は令和5年5月18日現在、その他は令和5年4月1日現在のデータ

(注2) 要支援・要介護認定率は、第2号被保険者(65歳未満)の要支援・要介護認定者を除いて算出した値

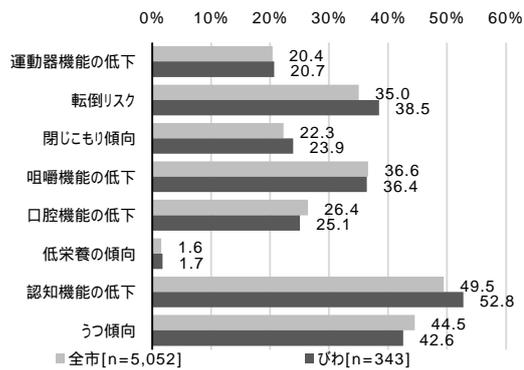
地域資源

医療	病院	- 施設	介護サービス事業所等	看護小規模多機能型居宅介護	- か所	
	診療所	3 施設		特定施設入居者生活介護	- か所	
	歯科診療所	3 施設		認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	1 か所	
介護サービス事業所等	訪問介護(ヘルパ-) (C型2含む)	2 か所		介護老人福祉施設	1 施設	
	訪問入浴介護	- か所		介護老人保健施設	1 施設	
	訪問看護	1 か所		有料老人ホーム	- 施設	
	通所介護(デイサービス) (A型4含む)	4 か所		サービス付き高齢者向け住宅	- 施設	
	地域密着型通所介護(療養通所)	1 か所		高齢者サロン等	老人クラブ	7 クラブ
	通所リハビリテーション(C型2含む)	1 か所			生活支援ボランティア団体	- 団体
	認知症対応型通所介護	- か所		通いの場	サロン	11 サロン
	短期入所生活介護(ショートステイ)	1 か所			転倒予防自主グループ	14 グループ
	短期入所療養介護(ショートステイ)	1 か所			よりあいどころ	- 団体
	居宅介護支援事業所	4 か所				

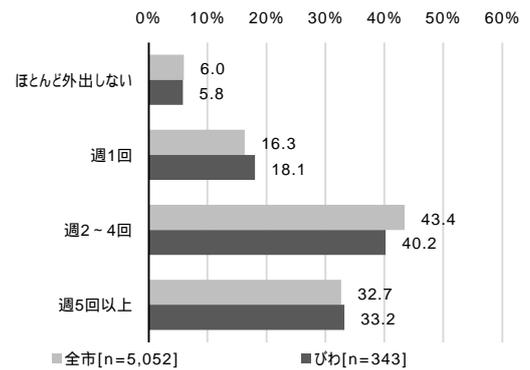
(注) 転倒予防自主グループは令和5年8月25日現在、その他は令和5年4月1日現在のデータ

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果

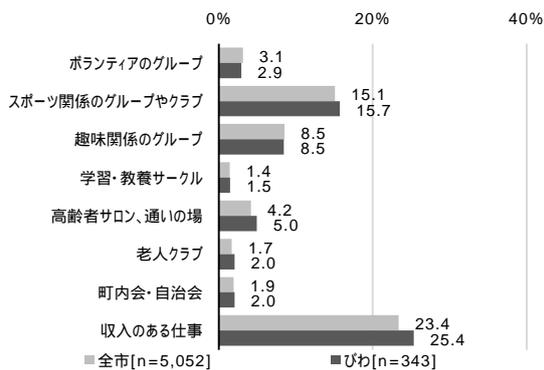
図表：各種リスクを有する割合



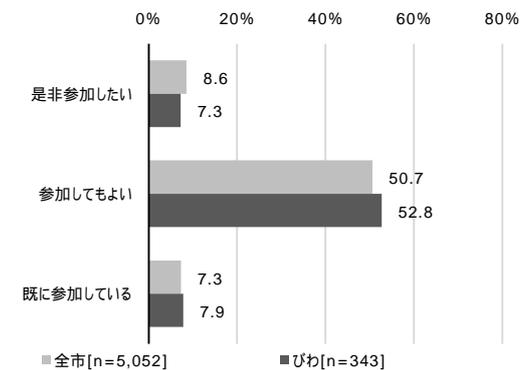
図表：外出の頻度



図表：地域活動等への参加状況（週1回以上）



図表：地域活動への参加意向



地域ケア会議等で把握した現状と課題	目指す方向性と取組
<ul style="list-style-type: none"> ・団体内や自治会内の結びつきが強い一方で、家族内で困り事を抱え続ける世帯が多く、支援機関等につながりにくい傾向があるため、相談先の周知が必要です。 ・河川の氾濫の危険性により避難指示が頻繁に出ますが、避難所に向かう人が比較的少ない状況があるため、災害に対するさらなる啓発や、地域の見守り体制の強化が必要です。 	<ul style="list-style-type: none"> ・困りごとを早期に相談してもらえるように、相談先の周知や地域住民との顔の見える関係づくりを推進します。 ・命のバトンや避難支援・見守り支えあい制度に取り組む自治会を増やし、住民同士での見守り活動を推進します。 ・地域住民の災害に対する意識の向上を図ります。

【 虎姫 日常生活圏域 】

虎姫圏域の高齢化率は、全市平均を上回っており、特に、高齢者のひとり暮らし世帯の割合は、全市平均を上回っています。要支援・要介護認定率も、全市平均を上回っています。

サービス基盤としては、介護保険入所施設、地域密着型事業所などが立地しています。高齢者サロン等については、他の圏域と比べ、生活支援ボランティア団体や通いの場（サロン）が、高齢者数に対して充実しています。

各種のリスクを有する割合をみると、閉じこもり傾向で全市平均を上回っています。

外出の頻度は、「ほとんど外出しない」とする割合が、全市平均に比べやや高く、このため、週1回以上の外出については、全市平均を下回る結果となっています。地域活動への参加状況をみると、週1回以上参加している人の割合は、全般に全市平均を下回る状況にあります。また、参加の意向のある人の割合についても、全市平均を下回る結果となっています。

基本情報

	令和5年（2023年）	
	虎姫	（全市）
人口	4,699人	114,524人
高齢者数（率）	1,592人（33.9%）	33,273人（29.1%）
後期高齢者（率）	862人（18.3%）	18,210人（15.9%）
要支援・要介護認定者（率）	357人（22.0%）	6,785人（19.8%）
高齢者のひとり暮らし世帯（率）	442世帯（21.1%）	7,447世帯（15.7%）
高齢者のみの世帯（率）	251世帯（12.0%）	5,724世帯（12.1%）
総世帯数	2,091世帯	47,414世帯
認知症高齢者数（認知症自立度 以上）	354人	6,638人
地域包括支援センター	浅井びわ虎姫地域包括支援センター	
連合自治会（自治会数）	虎姫（16）	
地域づくり協議会	虎姫	
中学校・義務教育学校	虎姫学園	

（注1）連合自治会（自治会数）は令和5年5月18日現在、その他は令和5年4月1日現在のデータ

（注2）要支援・要介護認定率は、第2号被保険者（65歳未満）の要支援・要介護認定者を除いて算出した値

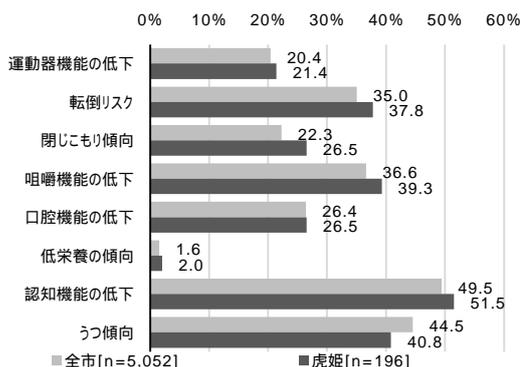
地域資源

医療	病院	- 施設	介護サービス事業所等	看護小規模多機能型居宅介護	- か所	
	診療所	4 施設		特定施設入居者生活介護	- か所	
	歯科診療所	1 施設		認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	2 か所	
介護サービス事業所等	訪問介護(ヘルパー)(C型2含む)	1 か所		介護老人福祉施設	1 施設	
	訪問入浴介護	- か所		介護老人保健施設	- 施設	
	訪問看護	1 か所		有料老人ホーム	- 施設	
	通所介護(デイサービス)(A型4含む)	2 か所		サービス付き高齢者向け住宅	- 施設	
	地域密着型通所介護(療養通所)	1 か所		高齢者サロン等	老人クラブ	3 クラブ
	通所リハビリテーション(C型2含む)	1 か所			生活支援ボランティア団体	1 団体
	認知症対応型通所介護	- か所			通いの場	サロン
	短期入所生活介護(ショートステイ)	- か所	転倒予防自主グループ	5 グループ		
	短期入所療養介護(ショートステイ)	- か所	よりあいどころ	- 団体		
	居宅介護支援事業所	1 か所				

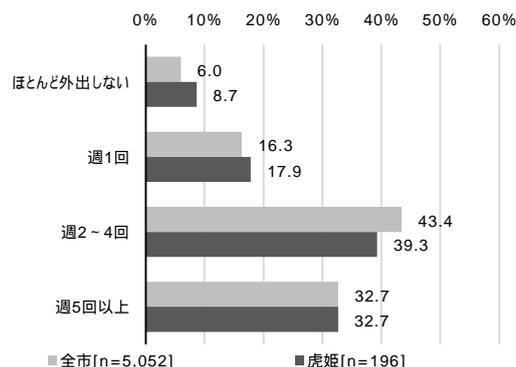
（注）転倒予防自主グループは令和5年8月25日現在、その他は令和5年4月1日現在のデータ

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果

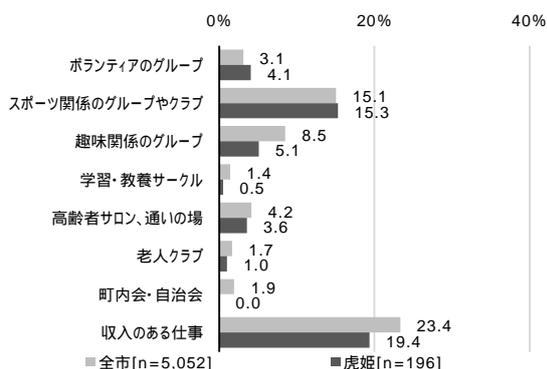
図表：各種リスクを有する割合



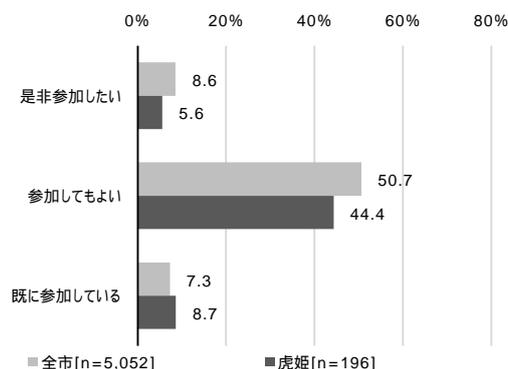
図表：外出の頻度



図表：地域活動等への参加状況（週1回以上）



図表：地域活動への参加意向



地域ケア会議等で把握した現状と課題	目指す方向性と取組
<ul style="list-style-type: none"> ・肥満・動脈硬化の方の割合が高い、喫煙者が多いという傾向があるため、地域住民の健康課題への意識を高める取組が必要です。 ・認知症による相談が増えており、要介護認定者における認知症高齢者の割合も高いため、地域住民の認知症理解や見守り体制が必要です。 ・担い手不足や活動者の負担について、地域活動の継続ができる方法や仕組み作りを検討していく必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代からの生活習慣病の予防や受診勧奨を行い、健康づくりに関する取組を推進します。 ・認知症について正しく理解してもらう機会を増やし、防災福祉マップや命のバトンも活用しながら住民同士の見守り活動を推進していきます。 ・居場所づくり活動や日常生活支援を推進していきます。

【 湖北 日常生活圏域】

湖北圏域の高齢化率は、全市平均を上回っています。また、高齢者のみの世帯の割合が、全市平均を上回る状況にあります。

介護保険入所施設、地域密着型事業所、訪問系事業所など各分野の施設が立地しています。高齢者サロン等については、他の圏域と比べ、老人クラブが、高齢者数に対して充実しています。

各種のリスクを有する割合をみると、閉じこもり傾向で全市平均を上回っています。

外出の頻度は、「週5回以上」の割合が全市平均を下回っていますが、「週2～4回」とする割合が高く、週1回以上でみると全市平均並みとなっています。

地域活動への参加状況をみると、週1回以上参加している人の割合は、各活動とも全市平均を下回る状況にあります。ただし、参加の意向のある人の割合（「是非参加したい」と「参加してもよい」を合計した割合）については、全市平均を上回る状況にあります。

基本情報

	令和5年（2023年）	
	湖北	（全市）
人口	7,888人	114,524人
高齢者数（率）	2,553人（32.4%）	33,273人（29.1%）
後期高齢者（率）	1,364人（17.3%）	18,210人（15.9%）
要支援・要介護認定者（率）	487人（18.6%）	6,785人（19.8%）
高齢者のひとり暮らし世帯（率）	400世帯（14.4%）	7,447世帯（15.7%）
高齢者のみの世帯（率）	402世帯（14.4%）	5,724世帯（12.1%）
総世帯数	2,783世帯	47,414世帯
認知症高齢者数（認知症自立度 以上）	773人	6,638人
地域包括支援センター	湖北高月地域包括支援センター	
連合自治会（自治会数）	小谷（11）、速水（13）、朝日（11）	
地域づくり協議会	小谷、こほく、朝日	
中学校・義務教育学校	湖北	

（注1）連合自治会（自治会数）は令和5年5月18日現在、その他は令和5年4月1日現在のデータ

（注2）要支援・要介護認定率は、第2号被保険者（65歳未満）の要支援・要介護認定者を除いて算出した値

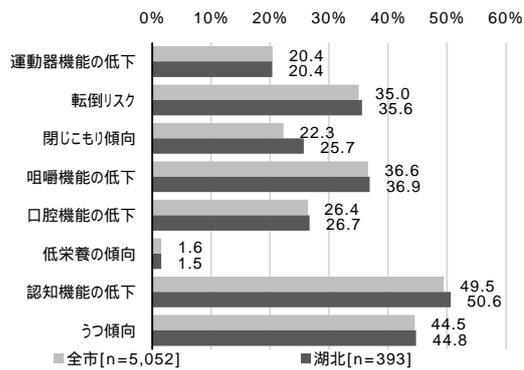
地域資源

医療	病院	- 施設	介護サービス事業所等	看護小規模多機能型居宅介護	- 場所	
	診療所	3 施設		特定施設入居者生活介護	- 場所	
	歯科診療所	2 施設		認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	1 場所	
介護サービス事業所等	訪問介護(ヘルパー)(C型2含む)	2 場所		介護老人福祉施設	2 施設	
	訪問入浴介護	- 場所		介護老人保健施設	- 施設	
	訪問看護	1 場所		有料老人ホーム	- 施設	
	通所介護(デイサービス)(A型4含む)	2 場所		サービス付き高齢者向け住宅	- 施設	
	地域密着型通所介護(療養通所)	2 場所		高齢者サロン等	老人クラブ	19 クラブ
	通所リハビリテーション(C型2含む)	- 場所			生活支援ボランティア団体	- 団体
	認知症対応型通所介護	1 場所			通いの場	サロン
	短期入所生活介護(ショートステイ)	1 場所		転倒予防自主グループ		10 グループ
	短期入所療養介護(ショートステイ)	- 場所		よりあいどころ		- 団体
	居宅介護支援事業所	5 場所				

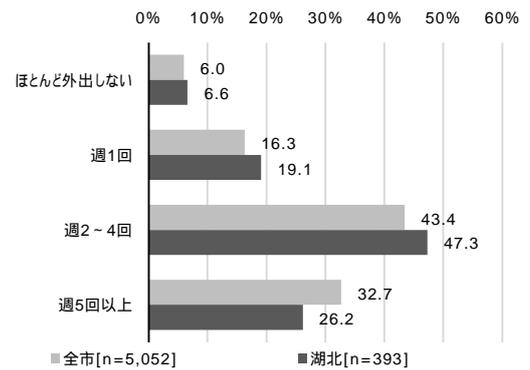
（注）転倒予防自主グループは令和5年8月25日現在、その他は令和5年4月1日現在のデータ

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果

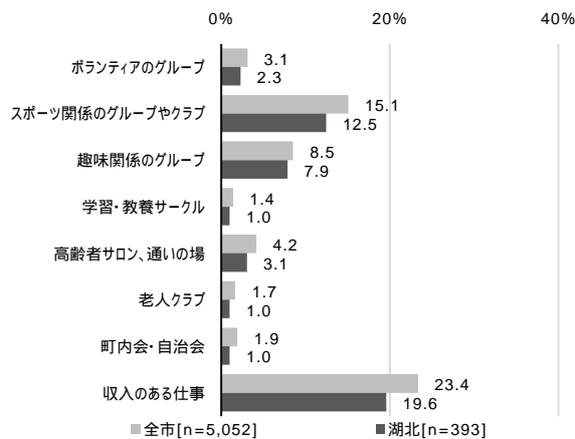
図表：各種リスクを有する割合



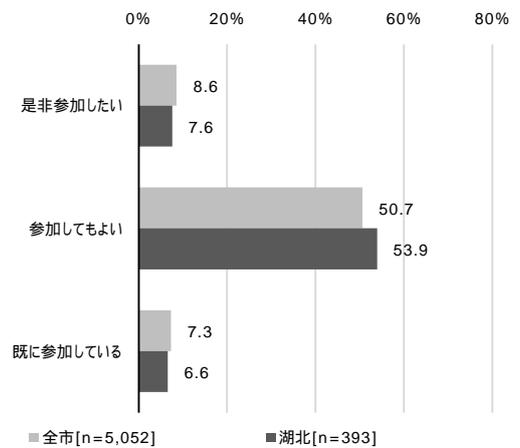
図表：外出の頻度



図表：地域活動等への参加状況（週1回以上）



図表：地域活動への参加意向



地域ケア会議等で把握した現状と課題	目指す方向性と取組
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化率が高く、高齢者のみの世帯が多い現状です。 ・交通手段が限られており、運転免許返納後、受診や買い物、活動の場への参加が難しくなり、認知機能の低下やフレイル状態になるリスクがあります。 ・地域で集まる場の減少や、担い手の高齢化による担い手不足のため、活動を継続するための仕組みが必要です。 	<ul style="list-style-type: none"> ・住民が主体的に地域のネットワーク（住民同士のつながり、住民と支援者とのつながり）づくりを行う取組を推進していきます。 ・住民が、地域の関係者とともに、自治会内でゆるやかに見守り・支え合う関係づくりを推進するため、地域の現状や課題に目を向けるための場づくりをしていきます。

【 高月 日常生活圏域 】

高月圏域の高齢化率は、全市平均を若干上回っています。また、高齢者のみの世帯の割合が、全市平均を上回る状況にあります。

地域密着型のサービス事業所、また介護保険入所施設の立地もあります。

各種のリスクを有する割合をみると、転倒リスクや口腔機能の低下が全市平均を上回っています。

外出の頻度は、「週2～4回」とする割合が全市平均を上回っていますが、「週5回以上」及び「週1回以上」の割合が全市平均を下回っており、週1回以上でみると全市平均を下回る状況となっています。

地域活動への参加状況をみると、週1回以上参加している人の割合は、「趣味関係のグループ」で全市平均を下回っていますが、多くは全市平均並みとなっています。参加の意向のある人の割合については、全市平均を上回る状況にあります。

基本情報

	令和5年(2023年)	
	高月	(全市)
人口	9,354人	114,524人
高齢者数(率)	2,916人 (31.2%)	33,273人 (29.1%)
後期高齢者(率)	1,551人 (16.6%)	18,210人 (15.9%)
要支援・要介護認定者(率)	516人 (17.5%)	6,785人 (19.8%)
高齢者のひとり暮らし世帯(率)	476世帯 (13.8%)	7,447世帯 (15.7%)
高齢者のみの世帯(率)	516世帯 (14.9%)	5,724世帯 (12.1%)
総世帯数	3,452世帯	47,414世帯
認知症高齢者数(認知症自立度 以上)	220人	6,638人
地域包括支援センター	湖北高月地域包括支援センター	
連合自治会(自治会数)	富永(8)、高月(9)、古保利(9)、七郷(7)	
地域づくり協議会	高月	
中学校・義務教育学校	高月	

(注1) 連合自治会(自治会数)は令和5年5月18日現在、その他は令和5年4月1日現在のデータ

(注2) 要支援・要介護認定率は、第2号被保険者(65歳未満)の要支援・要介護認定者を除いて算出した値

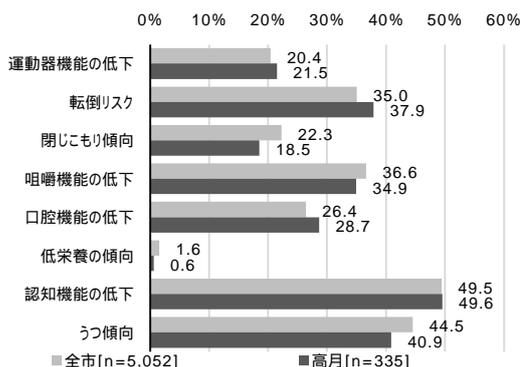
地域資源

医療	病院	- 施設	介護サービス事業所等	看護小規模多機能型居宅介護	- 箇所	
	診療所	4 施設		特定施設入居者生活介護	- 箇所	
	歯科診療所	2 施設		認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	3 箇所	
介護サービス事業所等	訪問介護(ヘルパ-) (C型2含む)	3 箇所		介護老人福祉施設	1 施設	
	訪問入浴介護	1 箇所		介護老人保健施設	- 施設	
	訪問看護	0 箇所		有料老人ホーム	- 施設	
	通所介護(デイサービス) (A型4含む)	5 箇所		サービス付き高齢者向け住宅	- 施設	
	地域密着型通所介護(療養通所)	2 箇所		高齢者サロン等	老人クラブ	19 クラブ
	通所リハビリテーション(C型2含む)	1 箇所			生活支援ボランティア団体	- 団体
	認知症対応型通所介護	2 箇所			通いの場	サロン
	短期入所生活介護(ショートステイ)	1 箇所		転倒予防自主グループ		15 グループ
	短期入所療養介護(ショートステイ)	- 箇所		よりあいどころ		- 団体
	居宅介護支援事業所	4 箇所				

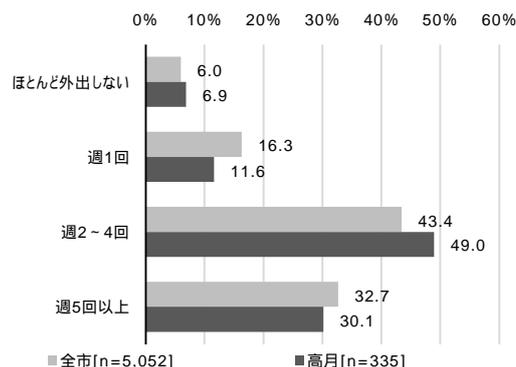
(注) 転倒予防自主グループは令和5年8月25日現在、その他は令和5年4月1日現在のデータ

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果

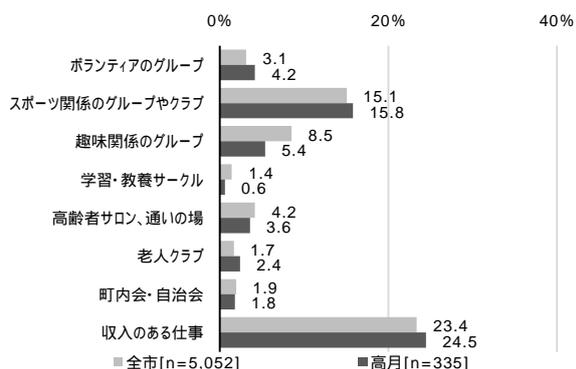
図表：各種リスクを有する割合



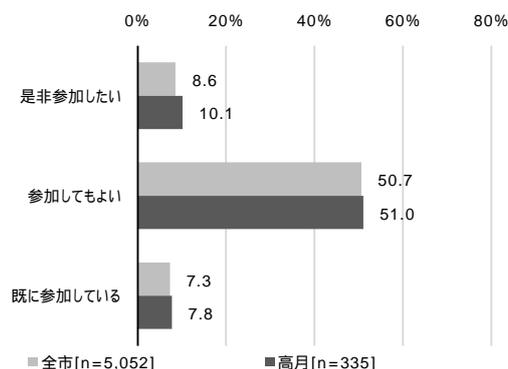
図表：外出の頻度



図表：地域活動等への参加状況（週1回以上）



図表：地域活動への参加意向



地域ケア会議等で把握した現状と課題	目指す方向性と取組
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化率が高く、高齢者のみの世帯が多い現状です。 ・見守り活動が活発で、サロン等の地域での高齢者の居場所が多く、地域住民主体の活動もありますが、地域の居場所に参加できない人へアプローチするための具体的な手段が必要です。 ・困りごとについて、本人家族間で解決しようとする傾向があり、周囲に相談しやすい地域づくりへのアプローチが必要です。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の居場所に参加が難しくなっている人に対して、居場所や活動に参加できるよう、お互いに支え合う仕組みづくりを推進します。 ・住民が相談できる場づくりに取り組んでいきます。 ・地域の支え手を増やし、また支える力を高めるための研修や、専門職とのつながりづくりを進めていきます。

【 木之本 日常生活圏域 】

木之本圏域の高齢化率は、全市平均を上回っています。高齢者のひとり暮らし世帯の割合や要支援・要介護認定者率も全市平均を上回っています。

総合病院、介護保険入所施設、各種のサービス事業所が立地しています。高齢者サロン等については、通いの場（転倒予防自主グループ）が、高齢者数に対して充実しています。

各種のリスクを有する割合をみると、口腔機能の低下をはじめ、咀嚼機能の低下、認知機能の低下などで、全市平均を上回っています。

外出の頻度は、「週5回以上」の割合が全市平均に比べ低く、週1回以上でみると全市平均を若干下回る結果となっています。

地域活動への参加状況をみると、週1回以上参加している人の割合は、「高齢者サロン、通いの場」が、全市平均を上回る状況にあります。他は、全市平均を下回っています。参加の意向のある人の割合については、全市平均を若干下回っています。

基本情報

	令和5年（2023年）	
	木之本	（全市）
人口	6,334人	114,524人
高齢者数（率）	2,453人（38.7%）	33,273人（29.1%）
後期高齢者（率）	1,376人（21.7%）	18,210人（15.9%）
要支援・要介護認定者（率）	575人（23.0%）	6,785人（19.8%）
高齢者のひとり暮らし世帯（率）	607世帯（21.9%）	7,447世帯（15.7%）
高齢者のみの世帯（率）	455世帯（16.4%）	5,724世帯（12.1%）
総世帯数	2,774世帯	47,414世帯
認知症高齢者数（認知症自立度 以上）	573人	6,638人
地域包括支援センター	木之本余呉西浅井地域包括支援センター	
連合自治会（自治会数）	杉野（4）、高時（5）、木之本（8）、伊香具（7）	
地域づくり協議会	杉野、高時、木之本、伊香具	
中学校・義務教育学校	木之本	

（注1）連合自治会（自治会数）は令和5年5月18日現在、その他は令和5年4月1日現在のデータ

（注2）要支援・要介護認定率は、第2号被保険者（65歳未満）の要支援・要介護認定者を除いて算出した値

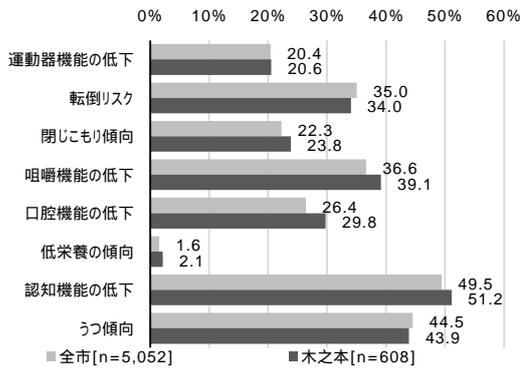
地域資源

医療	病院	1施設	介護サービス事業所等	看護小規模多機能型居宅介護	- か所	
	診療所	4施設		特定施設入居者生活介護	- か所	
	歯科診療所	3施設		認知症対応型共同生活介護（グループホーム）	- か所	
介護サービス事業所等	訪問介護（ヘルパ-）（C型2含む）	2か所		介護老人福祉施設	1施設	
	訪問入浴介護	- か所		介護老人保健施設	1施設	
	訪問看護	1か所		有料老人ホーム	- 施設	
	通所介護（デイサービス）（A型4含む）	5か所		サービス付き高齢者向け住宅	- 施設	
	地域密着型通所介護（療養通所）	1か所		高齢者サロン等	老人クラブ	5クラブ
	通所リハビリテーション（C型2含む）	2か所			生活支援ボランティア団体	- 団体
	認知症対応型通所介護	- か所			通いの場	サロン
	短期入所生活介護（ショートステイ）	1か所		転倒予防自主グループ		16グループ
	短期入所療養介護（ショートステイ）	1か所		よりあいどころ		1団体
	居宅介護支援事業所	1か所				

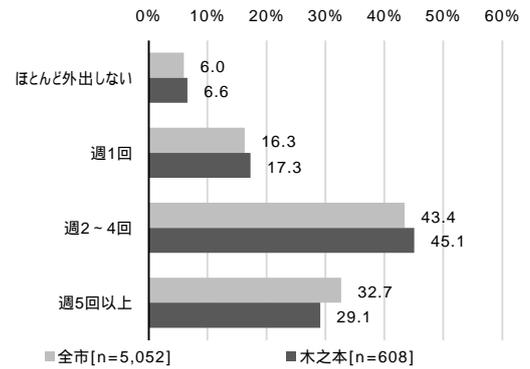
（注）転倒予防自主グループは令和5年8月25日現在、その他は令和5年4月1日現在のデータ

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果

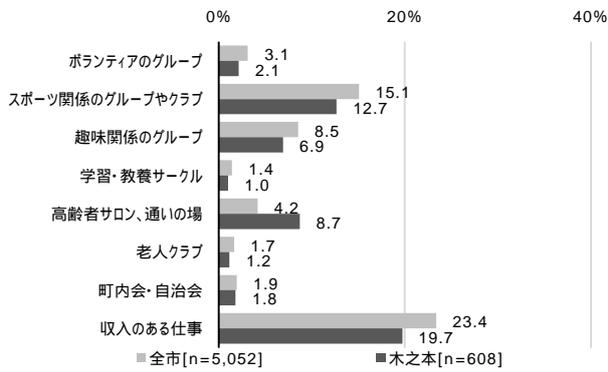
図表：各種リスクを有する割合



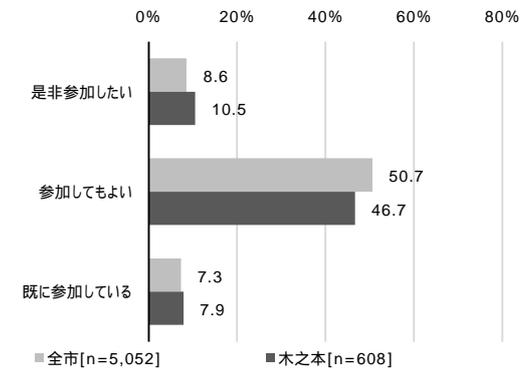
図表：外出の頻度



図表：地域活動等への参加状況（週1回以上）



図表：地域活動への参加意向



地域ケア会議等で把握した現状と課題	目指す方向性と取組
<ul style="list-style-type: none"> ・筋骨格系の疾患で介護保険を申請する割合が高く、その原因のひとつとして冬期の積雪による閉じこもりによる筋力低下が挙げられます。 ・高血圧性疾患、糖尿病、脂質異常症の医療費が市内上位であり、健康への知識・関心を高める啓発が必要です。 ・身寄りのない高齢者や、家族の協力が得られにくい高齢者等が増加しており、地域での見守りが必要です。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の団体等と協力し、閉じこもりによるフレイル予防に取り組みます。 ・健診の受診勧奨や、健康づくりの啓発イベントで、住民の健康維持増進に働きかける取組を推進します。 ・命のバトン、防災福祉マップの見直しなど、地域での見守り・助け合いの基盤づくりを推進します。

【 余呉 日常生活圏域 】

余呉圏域の高齢化率は、10 圏域の中で最も高くなっています。高齢者のひとり暮らし世帯の割合や高齢者のみの世帯の割合、要支援・要介護認定者率も、10 圏域の中で最も高くなっています。

地域密着型事業所として介護保険入所施設、サービス事業所が立地しています。高齢者サロン等については、他の圏域と比べ、生活支援ボランティア団体や通いの場（サロン、転倒予防自主グループ）が、高齢者数に対して充実しています。

各種のリスクを有する割合をみると、閉じこもり傾向が、10 圏域の中で最も高くなっています。一方、転倒リスクについては、10 圏域の中で最も低くなっています。外出の頻度は、「週 5 回以上」「週 2～4 回」の割合が全市平均に比べ低く、週 1 回以上で見ても、10 圏域中最も低くなっています。

地域活動への参加状況をみると、週 1 回以上参加している人の割合は、「ボランティアのグループ」や「高齢者サロン、通いの場」が、全市平均を上回る状況にあります。一方で、「スポーツ関係のグループやクラブ」は全市平均を下回っています。

基本情報

	令和 5 年（2023 年）	
	余呉	（全市）
人口	2,751 人	114,524 人
高齢者数（率）	1,214 人（44.1%）	33,273 人（29.1%）
後期高齢者（率）	719 人（26.1%）	18,210 人（15.9%）
要支援・要介護認定者（率）	289 人（23.6%）	6,785 人（19.8%）
高齢者のひとり暮らし世帯（率）	307 世帯（26.0%）	7,447 世帯（15.7%）
高齢者のみの世帯（率）	218 世帯（18.4%）	5,724 世帯（12.1%）
総世帯数	1,183 世帯	47,414 世帯
認知症高齢者数（認知症自立度 以上）	287 人	6,638 人
地域包括支援センター	木之本余呉西浅井地域包括支援センター	
連合自治会（自治会数）	余呉（19）	
地域づくり協議会	余呉	
中学校・義務教育学校	余呉小中学校	

（注 1）連合自治会（自治会数）は令和 5 年 5 月 18 日現在、その他は令和 5 年 4 月 1 日現在のデータ

（注 2）要支援・要介護認定率は、第 2 号被保険者（65 歳未満）の要支援・要介護認定者を除いて算出した値

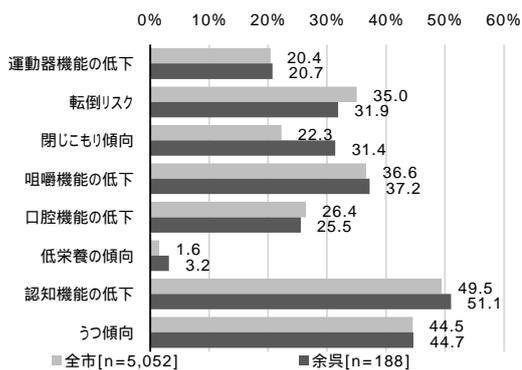
地域資源

医療	病院	- 施設	介護サービス事業所等	看護小規模多機能型居宅介護	- か所	
	診療所	1 施設		特定施設入居者生活介護	- か所	
	歯科診療所	1 施設		認知症対応型共同生活介護（グループホーム）	1 か所	
介護サービス事業所等	訪問介護（ヘルパーステーション）（C 型 2 含む）	1 か所		介護老人福祉施設	1 施設	
	訪問入浴介護	- か所		介護老人保健施設	- 施設	
	訪問看護	- か所		有料老人ホーム	- 施設	
	通所介護（デイサービス）（A 型 4 含む）	1 か所		サービス付き高齢者向け住宅	1 施設	
	地域密着型通所介護（療養通所）	- か所		高齢者サロン等	老人クラブ	7 クラブ
	通所リハビリテーション（C 型 2 含む）	- か所			生活支援ボランティア団体	1 団体
	認知症対応型通所介護	1 か所		通いの場	サロン	16 サロン
	短期入所生活介護（ショートステイ）	- か所			転倒予防自主グループ	15 グループ
	短期入所療養介護（ショートステイ）	- か所			よりあいどころ	- 団体
	居宅介護支援事業所	- か所				

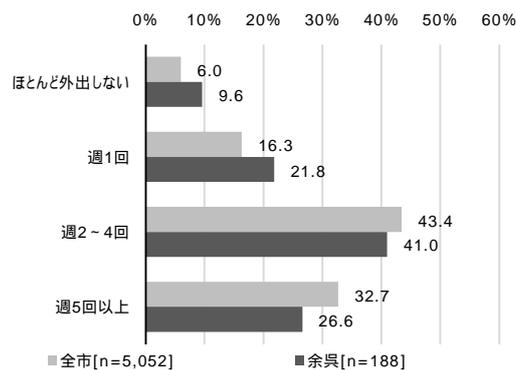
（注）転倒予防自主グループは令和 5 年 8 月 25 日現在、その他は令和 5 年 4 月 1 日現在のデータ

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果

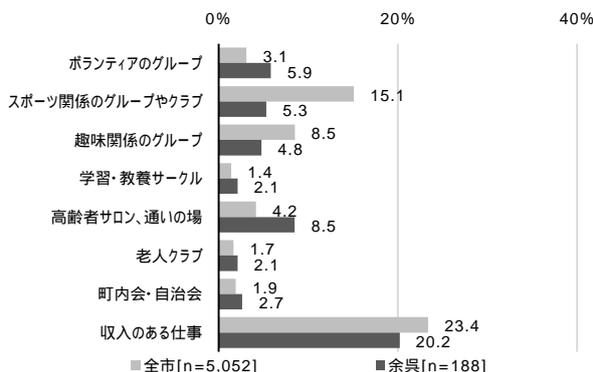
図表：各種リスクを有する割合



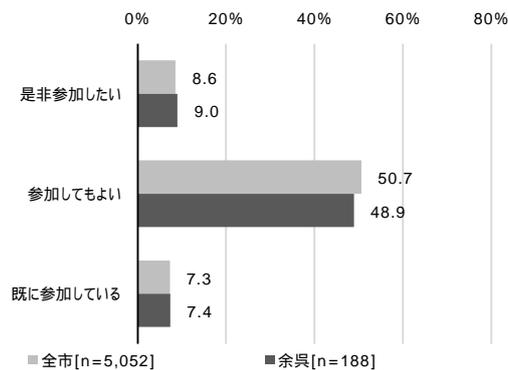
図表：外出の頻度



図表：地域活動等への参加状況（週1回以上）



図表：地域活動への参加意向



地域ケア会議等で把握した現状と課題	目指す方向性と取組
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化率が、市内で最も高い圏域です。 ・商業施設が少ないため移動店舗車（食料品販売）が各集落を回っていますが、通院等の移動が課題です。 ・人口が減少する中、地域づくり協議会等の各団体のスタッフを兼任されている方もおられ、その負担軽減の仕組みづくりが必要です。 ・冬季はサロン等が活動を中止するところが多く、介護予防の取組が必要です。 	<ul style="list-style-type: none"> ・移動店舗の利用促進により余呉の暮らしを守るとともに、見守り活動を推進し、地域コミュニティ構築に努めます。 ・潜在的な人材活用を図り、住民主体による支え合い活動の輪を上げるとともに、地域外交流を促進することで人材不足の課題解消に取り組みます。 ・住民主体の介護予防活動に取り組み、サロンや転倒予防教室の活動支援を推進します。

【 西浅井 日常生活圏域 】

西浅井圏域の高齢化率は、全市平均を上回っています。また、高齢者のひとり暮らし世帯の割合や高齢者のみの世帯の割合、要支援・要介護認定者率も、全市平均を上回っています。

サービス基盤としては、地域密着型事業所等が整っています。

各種のリスクを有する割合をみると、閉じこもり傾向が、全市平均を上回る状況となっています。一方、認知機能の低下については、全市平均に比べ低くなっています。

外出の頻度は、「週1回」の割合が全市平均に比べ高くなっているものの、「週2～4回」「週5回以上」の割合は低く、週1回以上でみると、全市平均を若干下回る結果となっています。

地域活動への参加については、全般に全市平均を下回る状況にあります。地域活動への参加意向については、「既に参加している」とする人の割合が、全市平均を下回る状況にあり、一方で参加の意向のある人の割合は7割近くとなっており、全市平均を上回る結果となっています。

基本情報

	令和5年(2023年)	
	西浅井	(全市)
人口	3,560人	114,524人
高齢者数(率)	1,401人 (39.4%)	33,273人 (29.1%)
後期高齢者(率)	780人 (21.9%)	18,210人 (15.9%)
要支援・要介護認定者(率)	305人 (21.5%)	6,785人 (19.8%)
高齢者のひとり暮らし世帯(率)	277世帯 (19.8%)	7,447世帯 (15.7%)
高齢者のみの世帯(率)	243世帯 (17.3%)	5,724世帯 (12.1%)
総世帯数	1,401世帯	47,414世帯
認知症高齢者数(認知症自立度 以上)	304人	6,638人
地域包括支援センター	木之本余呉西浅井地域包括支援センター	
連合自治会(自治会数)	西浅井(20)	
地域づくり協議会	西浅井	
中学校・義務教育学校	西浅井	

(注1) 連合自治会(自治会数)は令和5年5月18日現在、その他は令和5年4月1日現在のデータ

(注2) 要支援・要介護認定率は、第2号被保険者(65歳未満)の要支援・要介護認定者を除いて算出した値

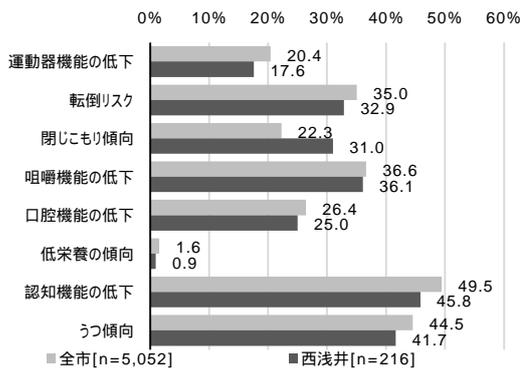
地域資源

医療	病院	- 施設	介護サービス事業所等	看護小規模多機能型居宅介護	- か所	
	診療所	2 施設		特定施設入居者生活介護	- か所	
	歯科診療所	1 施設		認知症対応型共同生活介護(グループホーム)	1 か所	
介護サービス事業所等	訪問介護(ヘルパ-) (C型2含む)	- か所		介護老人福祉施設	2 施設	
	訪問入浴介護	- か所		介護老人保健施設	- 施設	
	訪問看護	1 か所		有料老人ホーム	- 施設	
	通所介護(デイサービス) (A型4含む)	1 か所		サービス付き高齢者向け住宅	- 施設	
	地域密着型通所介護(療養通所)	- か所		高齢者サロン等	老人クラブ	13 クラブ
	通所リハビリテーション(C型2含む)	- か所			生活支援ボランティア団体	1 団体
	認知症対応型通所介護	1 か所			通いの場	サロン
	短期入所生活介護(ショートステイ)	1 か所		転倒予防自主グループ		6 グループ
	短期入所療養介護(ショートステイ)	- か所		よりあいどころ		- 団体
	居宅介護支援事業所	2 か所				

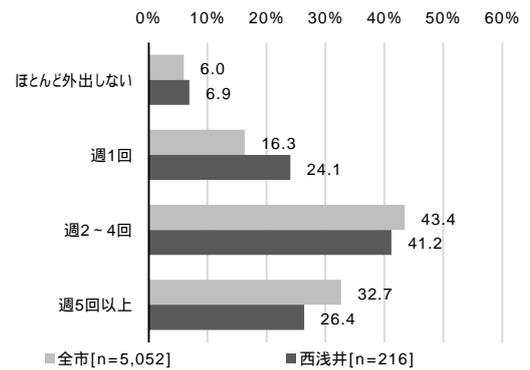
(注) 転倒予防自主グループは令和5年8月25日現在、その他は令和5年4月1日現在のデータ

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の結果

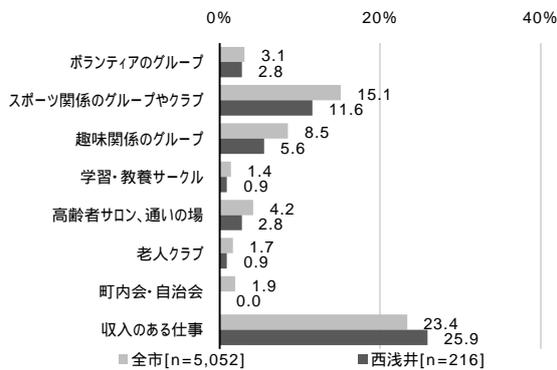
図表：各種リスクを有する割合



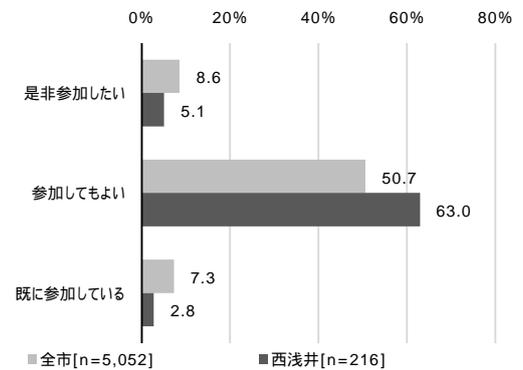
図表：外出の頻度



図表：地域活動等への参加状況（週1回以上）



図表：地域活動への参加意向



地域ケア会議等で把握した現状と課題	目指す方向性と取組
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化率が高く、ひとり暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯が多い現状です。 ・圏域内の商業施設は少なく、鉄道やバスは運行していますが利便性は十分ではなく、交通手段としてコミュニティバスの運行はあるものの、運転免許返納後の移動が課題です。 ・冬季は雪が多く、サロンなどの通いの場が休止となるため、冬季の閉じこもりによる介護予防の取組が必要です。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民による高齢者の見守りや支え合いの互助のネットワークをさらに広げる取組を進めていきます。 ・冬季の閉じこもり予防による介護予防について、健康に関する講座や通いの場を開催し、ケーブルテレビやホームページを通じてきんせ体操を活用し広く周知啓発していきます。